

(仮訳)

恒久的な友情の絆に基づく戦略的パートナーシップに関する日タイ共同声明
～災害を越えて育む信頼～

インラック・シナワット・タイ王国首相は、日本国政府の招待により、2012年3月6日から9日までの日程で日本を公式実務訪問した。インラック首相は、訪問中、皇太子殿下に謁見したほか、東日本大震災の被災地であり、タイの最近の洪水被害を受けてタイ人従業員が一時的に働く企業が所在する宮城県を訪問した。

野田佳彦日本国総理大臣及びインラック・タイ王国首相は、以下の共同声明を発出した。

1. はじめに

1. 1 両首脳は、インラック首相の訪日が日タイ外交関係樹立125周年の年に行われたことに留意しつつ、緊密な皇室及び王室間の関係は、現在の良好な二国間関係を象徴するとの見解で一致した。両首脳は、日タイ両国が600年にわたる歴史的な交流の絆に基づく、相互の友情と協力の強固な基盤を有していると確認した。両首相は、経済、社会、開発、安全保障及び政治の協力の分野における二国間、地域及び国際的な問題に取り組むため、両国間の戦略的パートナーシップを更に強化する重要性を強調した。両首脳は、地域の平和及び繁栄を強化するため、日本とタイとの戦略的パートナーシップを更に発展させる決意を新たにした。両首脳は、地理的にメコン地域の中心に位置するタイの継続的な成長及びダイナミズムが地域の繁栄にとって重要な要素であることを再確認した。また、両首脳は、日本とタイが、民主主義、人権、法の支配、良い統治、多様性の尊重及び市場経済等の基本的価値を共有する国として、地域の他の国と協力しながら、アジア太平洋地域において、これらの価値に基づく、より豊かで安定した地域のアーキテクチャーの構築に貢献することの重要性を再確認した。

1. 2 両首脳は、両国における最近の災害、すなわち、東日本大震災及びタイの大洪水における両国の犠牲者を心から追悼した。

2. 二国間関係

(経済・社会分野)

2. 1 野田総理は、2011年3月11日の東日本大震災に際して、タイ電力公社(EGAT)によるガスタービンの無償貸与を含むタイの政府と国民から供与された支援につき深甚なる謝意を表明した。インラック首相は、日本の震災からの力強い復旧及び復興を確信する旨表明した。野田総理は、東日本大震災後、タイ政府が被災地の避難所に

小児科医療チームを派遣したことに謝意を表明した。インラック首相は、日本が、タイ王国の洪水後の保健及び公衆衛生における影響評価を支援するために医療専門家チームを派遣したことに謝意を表明した。両首脳は、両国の医療機関、病院及び製薬工場間の医療協力が進んでいることを歓迎しこれを慫慂した。

2. 2 インラック首相は、緊急事態段階における排水ポンプ車チーム派遣を含む洪水時の迅速な支援、及び中長期的な復旧及び復興支援につき謝意を表明した。野田総理は、タイ政府が被害を受けた工場を復旧するための日本人ビジネスマンのタイにおける滞在手続の円滑化等を含むビジネスへの支援措置をとったことを評価するとともに、これらの措置は、洪水により被害を受けた日本の企業にとって大きな支援になったと述べた。野田総理は、タイ王国政府による数十億米ドルの洪水予防措置やビジネス部門を含む国際社会からの信認回復に資するその他の復旧のための措置を評価した。野田総理は、復旧及び復興に係る努力の進展について情報提供を受けたことに満足した。両首脳は、インラック首相及びタイに投資を行っている日本企業代表との間の会合が成功裏に行われたことを歓迎した。

2. 3 両首脳は、産業部門における人材育成の重要性を認識し、過去における多大な努力を通じて構築された緊密な経済の相互依存関係を洪水被害によって後退させることなく、現地に駐在する日系企業を含むタイの経済産業基盤及びサプライチェーンをより強靱に再生し、更に発展させるため、共に協力するとの決意を確認した。インラック首相は、多くの日本の企業によるタイにおける投資の拡大に関する発表に勇気づけられた。野田総理は、タイが再び深刻な洪水被害に苦しむことがないように、チャオプラヤ川流域の洪水マスタープランの策定及び同プランに係る調査への拠出といった洪水管理手段に係る積極的な支援を行う用意があると説明した。インラック首相は、2004年のスマトラ沖地震により引き起こされた津波被害の後に開始された「防災能力向上プロジェクト」から、上述の新マスタープラン策定、同プランを補完するタイの農業分野の洪水対策調査等を含む、現在の技術協力に至るまで、タイの防災能力の向上のための日本による協力に対し謝意を表明した。両首脳は、自然災害の経験及び知識の共有を通じ、両国の防災能力の向上を図る目的で、防災当局間による閣僚レベルの二国間会合が行われることを歓迎した。

2. 4 インラック首相は、タイの洪水被害後の復旧及び復興計画を含む、タイのインフラ開発への日本政府及び民間部門のコミットメントを歓迎した。両首脳は、日本の技術を通じた協力が、宇宙技術、高速・都市鉄道、ICTを用いた情報基盤整備等の分野において、タイの経済社会の発展に貢献し得ることを確認した。両首脳は、これらの分野における二国間協力を更に促進させることの重要性につき一致した。この文脈で、両

首脳は、日本がバンコク・チェンマイ間及びバンコク・ラヨン間のルート的高速鉄道に関するプレ・フィージビリティ・スタディを行っていることに留意した。

2. 5 両首脳は、二国間経済関係の更なる強化のための手段としての日タイ経済連携協定の重要性を再確認するとともに、同協定の円滑な実施及び運用を促進するとの意図を再確認した。

（政治・安全保障分野）

2. 6 両首脳は、日タイ次官級政務協議、外務・防衛、防衛当局者会議等の政治及び安全保障問題に関するあらゆるレベルの頻繁な往来及び対話の重要性を確認した。また、両首脳は、安定した地域の安全保障の環境に貢献する二国間の緊密な協力のため、これらのハイレベル対話を強化する重要性を共有した。

2. 7 両首脳は、ハイレベル当局者による相互訪問、コブラ・ゴールドを含む多国間訓練への両国の参加、両国の海事及び航空防衛当局者の艦船及び航空機による相互訪問、タイ士官候補生及び士官の日本の防衛省教育機関への受け入れに留意しつつ、これまで両国間の幅広い分野で行われてきた強固な二国間関係のための協力の重要性を強調した。また、両首脳は、2004年のスマトラ沖大地震により引き起こされた津波被害に際し、タイにおいて日本の海上国際緊急援助隊として展開された海上自衛隊による捜索救助活動を想起しつつ、ASEAN地域フォーラム（ARF）や拡大ASEAN国防相会議（ADMMプラス）の下での機会等、様々な機会における人道支援及び災害救援活動支援の分野における多国間演習の重要性を認識した。

（国民の交流分野）

2. 8 両首脳は、留学を含む長きにわたる青少年交流が、両国の相互理解の礎となっているとの見解を共有した。インラック首相は、かかる目的を達成するため、東南アジア青年の船（SSEAYP）及び21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS）が果たしてきた役割について評価の意を表明した。インラック首相は、青少年交流が拡大することへの期待を表明した。

2. 9 野田総理は、東日本大震災後の日本の復旧の努力への理解を増進することを目的とした、新たな青少年交流計画である「キズナ強化プロジェクト」を開始するとの決定を表明した。

2. 10 両首脳は、被災地の復興において観光の果たす役割の重要性を再確認し、両国間における観光交流の活発化に向けた努力を行うことを決定した。両首脳は、201

2年1月27日に署名された、日本側とタイ側との間、すなわち、仙台市及び東北観光推進機構とタイ観光公社との間の観光促進に関する合意を歓迎した。野田総理は、それが結果的にタイから日本への観光客数の急速な回復に結実した、震災直後のタイ旅行業界による大規模視察弾の他国に先駆けた派遣という、タイ政府のイニシアティブについて感謝の意を表明した。インラック首相は、日本側がタイにより示された上述の厚意に報いるため、洪水の直後、タイにおける日系観光業促進のための視察団を派遣したこと、また、アユタヤの歴史的遺跡へ文化遺産保護のために日本からの専門家チームを派遣したことについて謝意を表明した。

3. 地域・国際社会の課題への協力

(東アジア地域協力)

3. 1 両首脳は、昨年11月の第14回日・ASEAN首脳会議において採択された「バリ宣言」及び「行動計画」に基づき、2015年のASEAN共同体構築に協力して取り組んでいくことで一致した。インラック首相は、東西経済回廊及び南部経済回廊開発への支援を含むASEANにおける日本の連結性強化のための貢献に感謝の意を表明するとともに、本年5月30日から6月1日にバンコクにおいて連結性をテーマに開催される世界経済フォーラム東アジア会議の重要性を強調した。この関連で野田総理は、引き続きASEAN統合に貢献していきたい旨表明した。この観点から、インラック首相は、物理的、制度的及び人と人との連結性強化を通じた「連結性に関するASEAN+3パートナーシップ」に関するタイのイニシアティブについて説明した。野田総理は、ASEANを越えた連結性の強化に向けたタイのイニシアティブを評価した。両首脳は、開かれた多層的なネットワークをこの地域に構築するため、日・ASEAN、ASEAN+3、ARF、東アジア首脳会議(EAS)等の地域的枠組みにおける協力を強化することの重要性につき一致した。これらの枠組みを通じ、特に、EASに関して、両首脳は、海洋問題を含む政治及び安全保障問題における協力、並びに、経済その他の地球規模の課題に関する協力を促進することへの支持を再確認した。

両首脳は、相互の関心に基づき、かつ、航行の自由、航行の安全、円滑な商業活動及び紛争の平和的解決、1982年の海洋法に関する国際連合条約(UNCLOS)その他の関連する海洋に関する国際法を含む、普遍的に合意された国際法の諸原則に則って、地域の海上安全保障及び海洋の安全を含む海洋をめぐる問題に関する日本とタイとの協力を促進し、深化させることの重要性を再認識した。両首脳は、海洋を巡る問題に関する更なる地域協力を促進させるため、トラック1.5の拡大ASEAN海洋フォーラムをASEAN海洋フォーラムとバック・トゥ・バックに開催する形で発展させていくことにつき一致した。

両首脳は、東アジア自由貿易圏構想(EAFTA)及び東アジア包括的経済連携構想(CEPEA)における研究に留意しつつ、交渉開始に向けて地域の包括的経済連携に関す

る議論を加速させるために、ASEANプラス作業部会が遅延なく設置される必要があることを確認した。

両首脳は、食料生産の基準を向上させるためのイノベーション、技術、及び投資の協力の促進を通じて、食料安全保障及び食品の安全性を確保するための相互支援を強化すると決定した。日本とタイは、ASEAN+3緊急米備蓄制度（APTERR）の設置を共にリードしている国として、APTERR協定の早期実施に期待した。日本は、APTERR事務局を引き続きホストするとのタイの提案を歓迎した。

（日メコン協力）

3. 2 インラック首相は、日本がメコン地域における長年の信頼できる不可欠なパートナーであり、2009年の第1回日本・メコン地域諸国首脳会議以降、日本とメコン諸国との関係が実質的に進展したと述べた。野田総理は、メコン地域の中心に位置し、地域統合において建設的な役割を果たしているタイが、地域の発展に貢献することを確信すると述べた。両首脳は、最近のミャンマー政府の民主化・国民和解に向けた一連の措置を高く評価するとともに、両国がミャンマー政府の努力を一層支援するとの意図を表明した。また、両首脳は、ミャンマーの貧困削減と経済発展への支援を拡大することの重要性を共有した。両首脳は、本年4月21日、日本で開催が予定される第4回日本・メコン地域諸国首脳会議の成功に向けて協力していくことを確認した。

（朝鮮半島）

3. 3 両首脳は、朝鮮半島の平和と安定という共通の目標に向けて、両国が引き続き緊密に意思疎通を行っていくことで一致した。また、両首脳は、最近行われた米朝間の対話の結果を重要な一歩として歓迎し、北朝鮮に対し、非核化をはじめとする2005年の六者会合共同声明におけるコミットメントを真剣に履行する意思を具体的な行動によって示すことを引き続き求めていくことでも一致した。両首脳は、関連安保理決議を全面的に実施することに対するコミットメントを改めて表明した。両首脳は、国際社会の人道上の懸念に取り組むことの重要性を改めて強調した。これに関連して、インラック首相は、拉致問題に関する日本の懸念及び立場に対する理解を表明した。

（環境・気候変動）

3. 4 両首脳は、COP17における将来枠組みの構築に向けた成果を評価した。インラック首相は、タイの気候変動問題への対応能力を高める気候変動及び環境に関する日本からの二国間協力につき謝意を表明した。野田総理は、東アジア低炭素成長パートナーシップ構想を推進し、その目的を達成するために二国間オフセット・クレジット制度の構築を含む取組みをタイと共に進めていく意向を表明した。両首脳は、防災の観点からも気候変動への取組が重要であることを認識しつつ、低炭素成長の実現に向けて両

国が協力していくことで一致した。両首脳は、環境に優しい持続可能な工業生産に関する協力の重要性を認識した。

（防災協力）

3. 5 両首脳は、東日本大震災とタイの洪水被害の経験とその教訓を各国に共有し、強靱な社会の構築に貢献することが重要であることを再確認した。また、両首脳は、地域の防災強化のため、AHAセンターの能力強化、日本のアジア防災センターとタイのアジア防災予防センターの相互連携等が重要であることを強調した。野田総理は、2012年に大規模自然災害防災に関するハイレベル国際会議を被災地の東北で開催する予定である旨表明するとともに、2015年に第3回国連防災会議を招致する意向であることを表明した。インラック首相は、日本のこの分野のイニシアティブを歓迎し、これらの会議の成功に向けて日本と協力する意向を表明した。

（国連安保理改革）

3. 6 両首脳は、国連安保理改革の早期実現に向けてともに努力していくことの重要性を確認した。インラック首相は日本の安保理常任理事国への立候補に対する強い支持を表明し、野田総理は、これに関するタイによる継続的な支持に謝意を表明した。

（了）